

京極読書新聞 <第101号>

発行日 令和元年6月10日(月)
京極町生涯学習センター湧学館

京中生に インタビュー



平成29年度第28回京極町読書感想文コンクールで入選した中学生に、読んだ本のことや学校生活についてなどをお聞きしました。今の中学生はどんな本を読んでいるのでしょうか？

高木 美白 さん(2年) 「いじめ」 稲田 光佑 さん(2年) 「ぼくらの七日間戦争」

—— 高木さんはどうしてこの本を選んだのですか。

高木 いじめを受けて、自殺している人がたくさんいることを、テレビで見ただからです。

—— この本を読んで疑問に思ったことがあるそうですが、どういうところですか。

高木 初めは仲のよかった友達なのに、ささいな事でいじめになってしまうなんて、本当の友だちだったのかと疑問に思いました。

—— この本で一番心に残ったのはどういうところですか。

高木 主人公のりんかが自殺を図ろうとした時、「あなたが死んだら私は生きていけない」というお母さんの言葉で、りんかが思いとどまった場面です。

—— この作者が言いたかったことは何だと思いますか。

高木 いじめから逃げてはいけないということを一番言いたかったのだと思い

ます。いじめから逃げても、何も変わらない。だから勇気をもっていじめと戦うことが大切だと思いました。

—— この本から何か学んだことがありますか。

高木 私は今までいじめがあっても、見て見ぬふりをしていたと思いますが、これからはそんな時、勇気を持って友達を助けたいという気持ちが持てました。

—— 高木さんが今まで読んだ本の中で一番面白かったのはなんですか。

高木 「義男の空」というマンガです

—— どんな内容なのですか。

高木 病気や障害のある子どもや親と、実在する小児科の先生との物語です。

—— 今までの中学校生活で、何が一番楽しかったですか。

高木 学校の行事全てですが、特に秋の文化祭です。

「いじめ ー勇気の翼ー」
武内昌美／著（小学館、2017）

—— 稲田さんはどうしてこの「ぼくらの七日間戦争」を選んだのですか。

稲田 ぼくの母からこの本をすすめられました。あらすじを聞いて面白そうだったので選びました。

—— この本を読んで疑問に思ったことがあるそうですが、どういうところですか。

稲田 なぜそんなに、子どもだけの世界を作りたかったのかということです。ぼくは大人たちに不満を感じていないので、その気持ちがわかりませんでした。

—— いろんな登場人物が出てきますが、どんな印象を受けましたか。

稲田 自分と比べると単純にすごいと思いました。

—— それはどんなところですか。

稲田 親や校長先生の悪口を言ったりするところです。こんなに反発できないと思いました。

—— この本で一番心に残ったことは何ですか。

稲田 仲間の一人が誘拐されたんですが、子どもたちだけで助け出して、犯人

をつかまえた場面です。

—— この作者が言いたかったことは、何だと思いますか。

稲田 小さな者が一人だけでは大きい者に勝てない。小さな者が心を一つにすれば、大きい者に勝てるということだと思います。

—— 稲田さんはこの本から何を学びましたか。

稲田 友達と一致団結して、友情を深めていくことが大切だということです。

—— 今までに読んだ本の中で、一番面白かったのは何でしたか。

稲田 短編集の「5分シリーズ」が読みやすく面白かったです。

—— これまでの中学校生活で、一番心に残っているのはどういうことでしたか。

稲田 小樽へ行った見学旅行です。美術館などをまわりました。

「ぼくらの七日間戦争」
宗田理／著（ポプラ社、2007）

3ページ目に続きます



小林 花鈴 さん(3年) 「犬たちをおくる日」
佐藤 萌 さん(2年) 「犬と私の10の約束」



—— 小林さんはどうしてこの「犬たちをおくる日」を選んだのですか。

小林 去年が戌年で、湧学館が犬の本を展示していた中で、この本が気に入り選びました。

—— このお話の舞台となる愛媛県の動物愛護センターでは、年間約四千頭の犬が殺処分されるそうですが、どう感じましたか。

小林 その数の多さに驚きました。命の重さは同じはずなのに、なんでこんなに殺されるのかなと思いました。

—— 第4章の中の「命のイス取りゲーム」が印象に残ったそうですが、どんなゲームなんですか。

小林 一般の人に犬を譲渡するイベントなのですが、飼い主に選ばれないと処分される様子を表わした言葉です。

—— その結果、選ばれなかった犬たち運命についてどう思いましたか。

小林 すごいショックでした。その場面で初めてサブタイトルの意味が理解できました。

—— そのサブタイトルは何ですか。

小林 「この命、灰になるために生まれてきたんじゃない」です。

—— この本では、動物愛護センターで働く職員の様子が描かれていますが、どういう感想をもちましたか。

小林 動物の命をうばう仕事もあるんだなと思いました。私にはできないと思います。

—— 捨てられる命を一頭でも減らすにはどうしたらよいと思いますか。

小林 動物を買う前に、自分が本当に最後まで世話をできるのか考えてほしい。命の重さについても考えてほしいと思います。

—— 最後に、今までに読んだ中で、一番面白かった本は何ですか。

小林 「コーヒーが冷めないうちに」です。現実ではありえないことが起きるところが面白かったです。

「犬たちをおくる日」
今西乃子／著（金の星社，2009）

—— 佐藤さんはどうしてこの「犬と私の10の約束」を選んだのですか。

佐藤 私の姉が読んだことがあって、面白いから読んでみたらとすすめられたからです。

—— この本の主人公、中学生のあかりについて、どんな感想を持ちましたか。

佐藤 あかりはお母さんが入院したり、お父さんが仕事で帰りが遅くなっても、一人で留守番するのが、すごいと思いました。

—— 犬の「ソックス」を飼い始めると

き、あかりとお母さんは10の約束をしましたが、その中で一番印象に残った約束はどれでしたか。

佐藤 「私（ソックス）が死ぬとき、お願いします。そばにいてください。どうか覚えていてください。私がずっと愛していたことを。」です。

—— その他に印象に残った約束はありますか。

佐藤 「私にたくさん話しかけてください。人の言葉は話せないけど、わかっています。」です。

—— 佐藤さんがこの本を読んで思ったこと、感じたことは何ですか。

佐藤 犬を飼うときには、この本に書かれた約束を、大切にすることが必要だと思いました。

—— 今まで読んだ本の中で一番面白かった本は何ですか。

佐藤 また犬の本なのですが「ひまわりと子犬の7日間」です。

—— 今日はどうもありがとうございました。

「犬と私の10の約束」
川口晴／著（文藝春秋，2007）

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京極町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.jp>

